

ソフト事業の評価に対する主な理由

【 リーディングプロジェクト：NO.1～NO.9 】

1. 資源循環型社会形成事業

- 一通りやっているが、具体的な循環型社会への取り組みと成果が乏しい。ゴミの排出削減や再資源化の進捗に顕われていない。
- クリーンリーダー制度の活動が今一步不足していると思う。素晴らしい制度なので、活性化を望む。
- 昨年10月に発生した火災原因が、発火性のごみが混入していたことの周知徹底や広報が不十分なのは。また、粗大ゴミ再利用のリユースコーナー等はまだPRが必要なのでは。
- 設備が高級品になっても、利用者がそれについていっていないようでは、同じ事故の繰り返しのよう思う。
- 啓発活動＝「環境館」をもっと宣伝して生かしてほしい（広報、ケーブルTV）。
- リサイクルセンターは稼働したが、ソフト面（ごみ減量）への取り組みをより推進する必要がある。
- リサイクルプラザが整備され、他の事業も概ね実施されていることから満足度は高い。しかしながら、事故が続いていることから不信感もある。今後、分別徹底や環境教育の推進のため、環境館を積極的に活用してほしい。

2. 子育てサポート事業

- 育児が女性の就労のための大きなハードルなので、さらに力を入れてほしい。
- 今後も支援拡充をと願っています。核家族化に晩産化で助けを求める人が増えている。安心して子育てができる体制が必要だと思う。
- 少子化や共働き世帯の増加で、今後、これまで以上に支援が必要となってくると思う。自分たちが子育てをしていた時に比べ、支援体制は、各段の充実ぶりのように思うが、社会全体で子育てをするという大切なことだけに、それに関わる人材の質もより重要だと思う。
- 児童クラブの運営者を一本にして、画一化してほしい。
- 事業の内容の重要性は理解できる。しかし、ややPR不足のように思える。ターゲットに対して確実に情報を届けられるよう工夫が必要である。
- 子育てしやすい地域づくりで、流入人口を増やす取り組みを一層進める必要がある。
- 充実した子育て環境も市政としては重要課題。良く取り組んでいると感じるが、一層の充実を求めたい。

3. 高齢者いきいき事業

- 老人の居場所、世代間交流は不十分。
- シルバー人材センターの実績が年々減少気味（又は横ばい）だが、市が運営費の一部負担をしても上向くとは思えない。
- 他市より高い高齢者いきいき事業費を計上しており、成果が上がることを期待する。
- 自立でできる事や、民間でできる事は、任せても良いのではないか。これは社会福祉協議会でやっている事なのだが、各地区で行っている敬老会などは不要だと思う。これから高齢者が増えるので、本当に必要な事に予算を使うべき。
- 今後、高齢人口の割合は一層高まるため、取り組みとしての優先順を上げる必要がある。
- 高齢者を大切にし、高齢者がいきいきしている社会づくりとは、医療や福祉の充実だけを言っているのではないと思う。シルバー人材センターは、その機能を良く果たしているように感じる。
- 緊急通報システム等、各事業がきめ細かく実施されており満足度は高い。また、シルバー人材センターもこれから健康な高齢者が増加することから生きがいや収入を得る場として有益であると思う。ただし、世代間格差も社会問題化しており、若者世代への支援を強化する必要があるのではないか。
- 高齢者保健福祉の充実では目的等に重なり合った内容の事業がある。「選択と集中」の考えから事業全体を見直す必要がある。
- シルバー人材センターの充実に関してはさまざまな部門で民間でもできる事業を受注しているケースが散見されている（民業圧迫）。現在の社会状況から高齢者だけの就労支援をおこなっている法人に対して補助金の拠出は不必要と考える。
- 他市の状況資料をみると、軽度生活支援事業、安否確認事業等は、突出した数字のように思える。福祉事業の大切さは分かるけれど、過剰、重複したサービスは、市の財政面からも見直しが必要な部分があるように思える。

4. 文化・芸術活動支援事業

- 市関係者はよくやっている。しかし、生涯学習の観点から、公民館をもっと活用すべきと考える。
- 旧2市2町で行われている活動を、なるべく早く統合し、より高度な（レベルの高い）イベントを開催してほしい。
- 文化会館や美術博物館、郷土美術資料館等のハード面が整備されている点や、周南文化協会という推進組織も結成され、枠組みとしては整っている。しかしながら、人材育成や市民参加という側面が弱いように感じる。市民芸術文化祭を始め、多様な場の形成を望む。

5. 国際交流事業

- 成果が不明確な事業を無批判に継続しており、青少年教育の一環としても、多額の経費がかかりすぎる。
- 姉妹都市縁組は現状の 3 組でも多く、他市でも持て余していると聞けるが、当方から解消を提議するのは難しく、これ以上身の丈を超えて結ぶべきではない。
- 現状の 3 組までに留め、中国シ博市との中断中の縁組交渉は白紙に戻すべきである（好機として撤回も）。
- たしかに昨今の財政状況下での維持、存続は難しいように思えるが、青少年が国際交流の機会を与えられることは意義があると思う。事業内容を精査し、日本の再発見、周南市への貢献に繋がるなど、より有意義な形での継続を期待したい。
- 在住外国人との交流を深めていることは理解できるが、視点を変えて、外国人が自分達で文化を発信できる施設の提供があればより良いと思う。特に街中のスペースを利用したい。
- 交流が継続されていない姉妹都市については、経費や効果の面から提携を見直すことが必要である。一方、継続されている姉妹都市については、より交流を深め裾野を拡大することが本事業の目的に即したものとなる。地域に密着した事業として、市内に在住する外国人や企業・大学の留学生の支援及び市民との交流の場づくりを望む。

6. 公共交通機関の拡充整備

- バス路線の維持、拡充は整理・統合もやる時はやるということではなければならない。不採算路線については一定のルール・指針を示す必要がある。
- 交通基盤は、産業、文化交流、防災等々の様々な観点からも重要。より一層、ハードのみならずソフト面での高度化を図るべき。
- 「ユニバーサルデザインのまちづくり」の視点から大変重要な事業だと考える。
- 不採算バス路線（周辺部）に乗合タクシー（福祉タクシー）制度の拡充を期待する。
- 今は車の運転が出来るが、運転が出来なくなった時に、バスの便数等が少なくなっているのは困る。

7. 市民参加型イベントの創造事業

- 徳山のんた祭、徳山夏まつりは、どんなお祭りなのかイメージが湧かない。ネーミングを含め魅力のある市民参加型のイベントになっていない。
- すべてがそうというわけではないが、市民でなく官製イベントの印象がぬぐえない。
- 市民が参加することで、地域への思いが高まる。

8. 地域コミュニティ形成事業

- 市の施策はコミュニティ推進連絡協議会と自治会連合会で分かれるが、コミュニティ推進連絡協議会にウエイトがかかっており、これがヘゲモニー争いや住民自治に対する誤解を生む一因となっている
- コミュニティ推進連絡協議会では地域間統一が進んだが、自治会連合会ではまだ終わっていない。この分野は行政の関与はほどほどにすべきで、強めると反発か依存心につながる。
- 地域間のバラツキは認めた上で、地域内の実状に合った整理・棲み分けに期待するしかないが、市は比較的良好にやっている。
- 市内全域にコミュニティ推進組織が設置されたことにより、まちづくりの推進体制の基盤が整備されたことは高く評価できる。ただし、イベント中心となっている面もあり、地域内の住民の自主的な様々な活動を調整・支援するコミュニティ組織になるよう支援してほしい。
- 今後、地域の支えあいはますます重要になってくると考える。コミュニティの強化は重要な課題である。
- 全地域に組織が設定され、今後の地域の活動が期待される。

9. 行政サービスシステム構築事業

- 将来、指定管理や業務委託に移せるものが 1 つだけという回答は期待外れだった。システム構築計画が「電子自治体」という恰好良い名前と裏腹に、現状をそのまま肯定しているからと推察する。
- 指定管理制度の在り方について、効果的な運用を図る上で、委託内容を検討してほしい。
- 時代の流れであり、必須事業と考える。

【 リーディングプロジェクト以外の事業 】

10. 新土地利用計画の策定

- 生活に直結している事業でもないが必要性も感じる。
- 具体的に、どこの土地に関して動いているのか等が全く見えない。

11. 広域交流を活発にする交通ネットワークの整備（電車、バス、船）

- 高速バスや新幹線の利便性は向上している。現状維持が必要。
- 引き続き利便性向上にむけた努力をしてほしい。

12. 市民活動支援機能の充実

- 市民活動賠償責任保険制度は大いに有用。
- センターはよいが、今後、積極的に外の各地区に出かけてほしい。
- 事業は着実に展開されているが、市民活動支援センターが駅ビルにあり、市民が必ずしも利用しやすい場所ではないことから、支援センターになり得ていない。
- 市民活動の相談件数が少ないと思う。コミュニティ・リーダーが不足しているのではないかと思う。具体的な対策をお願いしたい。
- 無料の駐車場がないので、市民というよりお年寄りの憩いの場となっている。
- 市民活動の推進のための支援は良くできているように思う。

13. まちづくり推進組織の設立

事業内容が NO.8 と同じ。

14. ボランティアバンクの設置

- 登録は十分満足できるが、どう利用されたかが問題。
- 利用まで考えたバンクであってほしい。これからの社会を形成していく上で、重要と思われる。
- 登録数が少なく、効果がないのでは。
- 市民活動だけに特化せず、教育委員会、社会福祉協議会のボランティア登録も連携し、事業を進めていただきたい。

15. まちづくりコンペの実施

- 今後の予定でも述べている通り、ここで区切りの総括をしてほしい
- 市民の意欲やまちづくりの醸成には、効果的な事業である。より積極的な周知を希望する。
- よい事業だと思うが、成果を考えて、次期事業に繋げていただきたい。
- よく分からないが、今後の予定にあるように、事業実績の検証と存続を検討され、より魅力あるまちづくりの企画を期待したい。

16. 人材の育成

- 人材育成はまちづくりの土台であり、各種講座が継続的に開催されており評価できる。
- 各ボランティア団体等で受講者をみかける。成果が表れている事業だと思う。
- より良い社会を作るためには、人材の育成は欠かせない。より一層の強化を期待する。
- ファシリテーター養成等の必要性は理解できるが、現実にはその定着・効果浸透は難しく中途半端にならないかが心配。

17. 情報公開・情報提供の推進

- 時代の流れでもあり実施する必要あり。
- 制度自体が市民に浸透していないように思えるので、市民へのなお一層の周知を願う。

18. 郷土に伝わる文化財の指定と保存

- 歴史と文化を大切にすることは、豊かな未来を作ることにつながると思います。本事業にも一層力を入れていただきたい。
- 生活に直結している事業でもないが必要性も感じる。
- 文化財については、できるかぎりの保護が大切と思う。同時にPRも必要。

19. 郷土芸能の保存と伝承の支援

回答がNO.18と同じ。

20. 既存公共施設を活用した活動の推進

- 公民館は、生涯学習の場と同時に、市民交流の場でもあり、重要性は極めて高い。
- 多様な生涯学習が各地域で展開されており、これらの活動が地域づくりの土台をなす。
- 公民館を教育の場だけではなく幅広い活動に積極活用できるよう工夫が必要である。

2 1. 図書館機能の充実

- 市民の生涯学習の場として幅広い年齢層が利用しており、今後も安定的なサービスを提供していくべきである。
- 図書館ネットワークシステムの構築がなされ、利便性が高まり利用しやすくなった。
- 図書館は文化都市としてぜひ充実して欲しい存在。文化会館、美術博物館との連続性も考慮してはどうか。
- 移動図書館はよく利用しているが、本の入替えが十分でないように思う。また、図書館の駐車場が少ないのも難点。
- 夜 9 時位まで利用時間の延長ができないか。
- (飲食ができる) レストランができないか。

2 2. 専門的な知識技能をもつ住民の登録と活用

- 事業はよい内容だと思うが、ボランティアの登録、育成があちらこちらでみられる。一か所に集約する方がよい成果をあげられるのではないか。
- 周南市在住の知識人は潜在的に多いと思う。「学」も巻き込んだ活動にしてはどうか。
- なかなか活用が困難であり、必要のない事業と思う。

2 3. 学校教育への住民による地域教育の導入

- コミュニティスクールの概念はよいが、既存の PTA 組織との関係が未整理と考える。
- コミュニティスクールの推進が地域教育の推進に寄与するかどうか、よくわからない。モデル地区などによる取り組みを参考に、今後の方針を考えてはどうか。
- 地域の意見を取り入れ、学校と一体となり、学校の運営を図ってほしい。

2 4. スポーツ・レクリエーションの普及を促す人材・組織の育成

- スポーツ推進委員を含め、体育推進委員等、役員は高齢化している。熱意はよいが、70 代後半以上が辞めず、中堅・若手の成長の阻害要因となっているケースが多い。あまり特権意識を助長しないよう注意が必要。
- 教育機関においてやボランティアに市内人的資源の育成は進んでいるため、サポートの必要性はそれほど高くないかも知れない。
- スポーツは生涯学習とともに住民の健康維持にもつながる地域活動であり、その推進役としてスポーツ推進委員は重要な役割を果たしている。
- 郷土出身の作家、文化人と同様に、宿泊施設等の提供はできないか。
- 帰省し易い環境整備が望まれる。

25. 各種競技の全国大会やプロスポーツ、日本リーグ等の開催、誘致

- せっかくの設備なので、うまく活用してほしい。全国大会クラスの競技が本市であれば盛り上がると思うし、本市をアピールするにも良いと思う。
- 国際的な試合が開催され、人が集まるまちになると良いと思う。
- 費用対効果の視点に留意して、本事業の取り組みが市民の運動・健康推進にどの程度寄与するか検討が必要。
- 各種競技イベントの遊技は、観光客の誘致にもつながる。観光交流課とも連携して推進していただきたい。
- 全国や中国地方規模の大会の実施は、競技者や競技団体役員の力量向上につながり効果がある。また、多くの来訪者がありマチの賑わいにも貢献するものであり、もっと力をいれてほしい。

26. 案内標識等の外国語併記の推進

- これからの時代には、これまで以上に必要となると思う。
- 費用対効果が見えにくくあまり必要性を感じない。

27. 国際交流（通訳等）ボランティアの登録

- 取り組みの優先順位は低いと思われる。
- 事業は未実施でもあり、現状では特に必要性を感じない。
- 費用対効果が見えにくくあまり必要性を感じない。

28. 推進体制の整備確立

- 今後必要な事業だと考える。
- 少なくとも現状での取り組みを維持する必要がある。
- 人権教育の推進内容及び協議会の内容を検討したら？
- 活動状況がよく見えてきません。

29. 教育・啓発の推進

- 対象者が生徒か一般市民かはっきりしない印象がある。対応も当然変わってくるはず。
- 最近、研修先の実績が広がり、良いことと思う。
- 積極的な事業活用が望まれる。もっと幅広い年齢層が使える内容が必要。
- 講座内容を工夫しながら継続的に実施されている点は評価できる。
- 人権教育の推進内容及び協議会の内容を検討してはどうか。
- 取り組みの実績（参加者数）は良いと思う。
- ワークショップはとても効果的だと思う。

30. 地域間交流の推進

- 必要な事業と考える。引き続き実施を。
- 地域間の交流は、幅広い世代で、より一層行うべき。
- 地域間の交流の推進をのぞむ。
- 各種組織の中で交流意識と必要性の醸成

31. 高齢者能力をボランティア活動などに活用

- 個人4件は少ない。高齢化が進み、元気な方が多い中、まだまだ一般の方達に知られていないのではないかと。いつでも行きやすい地域の公民館を利用出来たら良いと思う。
- 生涯現役社会づくりの為に多に活動していくとよい。
- とても有意義なことだと思ふ。
- 高齢者の対象年齢が何歳なのか分からないが、個人で4件は少ない。今、中学・高校でボランティアが盛んなので、つなげていけたらよいと思う。
- 高齢人口比率は今後一層高まるため、高齢者の活躍の場の創出の意味でも、少なくともこれまでの取り組みを維持すべき。
- ボランティアの養成は社会福祉協議会にとって重要な事業だと思われる。しかし数字的に決して多いとはいえず、更なる努力が必要である。

32. 老人クラブの育成強化

- 老人クラブ本来の組織目的に加えて、特に NO.31 ボランティア活動への指向が望めるのではないかと。
- 高齢化社会にあって、本事業は大切な事業の一つと思われ、一層の支援があるべき。
- 市の支援もあり、老人クラブは他市町に比較し活発に活動されている。
- 老人クラブの必要性、活動内容を検討する必要がある。時代の変化に伴い老人クラブのあり方も変化しているように思える。

33. 既存公共施設を活用した福祉施設づくり

- 新しい施設は必要ない。既存の施設の一部を利用して十分対応できる。
- 福祉施設づくりとして、バリアフリー、ユニバーサルデザイン等の対応はとられているのか。
- まずは福祉施設が一層必要かどうかの現状を把握した上で検討すべき。
- 人口減少はしているが、既存施設の有効活用は多面的に検討してほしい。
- 原則、公的機関がこれ以上福祉施設を整備する必要はないと考えるが、障害者施設に関しては需要に対して供給が必ずしも満足でないため既存公共施設を活用し補う必要性もある。

34. 高齢者介護のボランティア・ネットワークづくり

- 元気な高齢者は自助、共助だと思う。
- 広い地域で実施されると良いと思う。
- この事業は行政が入らなくても、民間がとても充実しており、業者も増えつつあるので、ボランティア的なサポーターの確保は難しいと思う。
- 高齢化対応社会の構築は重要な課題。鹿野地区以外の推進を期待したい。
- 鹿野地区だけの活動となっており、市全域での基本的な仕組み作りを議論して取り組むべきである。
- 高齢者に対する他事業もふくめ事業内容を検証し、効果があれば地域拡大をするべき。

35. 子育てサポート事業（妊婦の健診助成制度）

- 未来を担う子供たちのため、公費負担が必要だと思う。
- このままぜひ続けていただきたい。
- 少子化解消のためにも、事業の継続が望ましい。
- 地域の将来に向けた子育て支援の観点からも、一層力を入れる必要がある。
- 人口減少対策の一環として、さらに推進していただきたい。
- 重要で継続が必要な事業だと考える。

36. 青少年健全育成

- 地域自治会やコミュニティ推進協議会等の関係団体が連携を図り、健全育成に努めるとよい。
- 「学」との連携が、今ひとつ見えてこない。もっと、幅広い仕組みで青少年を育成してゆく社会の形成を考えていただきたい。
- 重要で継続が必要な事業だと考える。

37. 健診ネットワークの充実（成人、乳幼児、妊婦健康診査）

- 重要なので継続していただきたい。
- 住みよさの創出での観点からこれまで同様に力を入れる必要がある。

38. 医療機関の機能分担と連携（相互協力）の促進

- 将来の医師不足を先取りし、柔軟に対応してほしい。
- 中央病院は充実してきたと思うが、本事業の理想とするところへは、まだ時間が掛かりそう。
- 医学的に「必要な医療」と市民が「望む医療」に格差がある。市民の意識改革が必要である。さらなる啓発活動を。

39. 休日・夜間診療所の充実

- かなり充実してきたと思うが、市民の安全と健康は市政の最重要課題であって良いと思う。
- 市民にとって重要な事業であると思う。

40. 安全な避難場所の適正配置

- 避難所の耐震を十分にすること、災害が発生した際のシミュレーションをして、指示がうまく伝わるシステムの確立が必要。
- 自分達の避難場所は自宅から一番近い所だけと勘違いしている方がいる。「何故、我が家より危険な海の方の施設に避難するのか」と。したがって、もっと解りやすく説明する必要がある。
- 各種のハザードマップの作成と指定避難場所の見直しを早急を実施するとよい。
- 自分自身、防災に対する意識に目覚める必要は感じているが、現実的には、心構えが十分ではないように思う。
- 避難場所となる施設の耐震性が気になる。
- 新たな災害関連データをもとに、これまでの取り組みを進めることが必要。
- ハザードマップの作成が（他の地区に比較して）遅れている。また、避難場所が少なすぎる。
- 公共の施設だけを設定するのではなく、民間の施設（福祉施設等）とも協定を結び避難場所を拡大する必要がある。また、福祉避難所の設定も必要ではないか。

41. 防犯灯の設置

- 現在、自治会の防犯灯の電球交換が電柱1本3,000円と負担になっている。LED灯への切替が良いのは分かっていますが、現在の自治会費では難しいので、今後値上げが必要と思っています。
- 自治会任せになっている感じがする。自治会によって、不十分な地区が多々ある。
- 自治会負担では限界がある
- 「LED灯」の普及促進を望む。
- 防犯灯ー青い光が良いと思う。
- 設置補助は、中電補助の廃止を除けば、安定していたと考えられるが、LED切替について統一方針が出ていないため、各地で混乱が発生している。
- 問題を生じないようにするため ①予算増額 ②地域間の不公平 が生じないように執行取扱が必要。
- より一層安全な社会づくりを進めていただきたい。
- 住民の暮らしに直結したものであり、引き続き支援が必要である。
- 必要性も感じられるし、効果もあると思う。継続するべき。

4 2. 防犯協議会の体制強化

- 具体的な活動が見えない。補助金は何のためか分からない。
- 防犯協議会への補助金はどんな形で市民に還元されているのか気になる。光地区への補助金の意味が分からない。
- 現状の活動状況（内容）がよく見えない。
- 事業の効果が見えづらい。

4 3. 防犯ボランティア活動の支援

- コミュニティ活動の中に組み込まれているように思える。独自の活動が見えない。
- 各地区の団体は防犯ボランティア協議会に殆ど加盟し、防犯パトロールを精力的に行っている。
- 従来 of 青少年育成市民会議の如き活動は、参加団体が多すぎて拡散し、マンネリ化しているとも評されている。
- 防犯意識を普及するよい事業だと考える。

4 4. 緑化の推進

- 具体的な戦略が今一步。公園の将来像、街路樹の選び方、更には旧毛利庭園（日本庭園）の復活等。
- 緑化維持の費用も問題
- 維持管理のことを考えて事業展開した方がよい。
- 緑の多い街づくり
- 緑化の推進方策として、大きくは都市緑化と周辺地域緑化との基本的区分が必要ではないか。
- 国体のお陰で整備されたが、国体が無くともきれいな街づくりを進めたいものです。
- 潤いのあるまちの創設のため、市民参加による花いっぱい運動を拡充する必要がある。
- 早急に進める必要性は感じない。費用も含め地域住民に任せられる部分もあるのではないか。

4 5. ISO14001 認証取得へ向けた取組み

- ISO にしても EMS にしても、市＝行政が取得することが何のメリットになるのか、理解できません。
- 公的な機関なので、取得のためのお金と時間は、もっと市民の生活に役立つために使ってほしい。
- 環境マネジメントシステムへの取組みが、具体的に緑のまちづくりにいかに寄与するか、費用対効果の視点にも留意して再検討する必要がある。
- 今後の取組みに期待したい。
- ISO を返上したことに対して5の評価とした。今後は独自の基準でやるべきである。

4 6. 産学官の連携強化

- 徳山高専、徳山大学のみならず、必要とあれば京都大学（植物園）等とも連携強化は是非お願いしたい。
- 地場産業振興センターのポテンシャルにもっと目を向け、活用すべきと思う。当市だけの施設ではないが、当市に立地しており、もっと支援に力を入れてほしい。
- 高専・大学を中心に、市内の高等教育機関の見知を市内の産業力向上に、より結びつけるための仕組みが見えにくいと思われる。
- 周南市の（知的財産という意味での）潜在能力は高い。これを活かして、さらに豊かな市にすべき。
- 産業の活発化が周南の強みの鍵を握ると思うので、強化してほしい。
- 良い事業だと思うが、周知が今一つである。積極的な運用が必要。

4 7. 企業連携の促進

- 域外への PR の積極化も含めて、少なくとも現状以上の取り組みが求められる。
- パラボラ会は、良い企画。これを、発展させるアイデアが必要。
- 周南地域地場産業振興センターを核に連携を強化してほしい。
- 異業種交流は重要なことと考える。しかし、パラボラ会当日に他の経済団体関係行事が重なりあったりしていることもある。もう一度主催団体同士で調整、確認し貝のあり方を考える必要がある。

4 8. ベンチャー企業、起業家への支援策の検討

- 周辺地域の農用地を活用した農林業ベンチャー企業を期待する。
- 必要性は理解できるが、起業家のサポートで目に見えるような効果を出すことは非常に困難。
- 周南市全体の発展もさることながら、中心市街地の発展を多面的に検討していただきたい。その中に、本事業も含まれると思う。
- すぐには成果の出ない分野であろうが、起業する風土は継続して育ててほしい。

49. 地域農林水産業の振興（農林）

- 一次産業の就業者を増やすための中山間地域の中心商店街の維持も重要。
- 高齢化の中での産地形成の取り組みは大変とは思いますが、今、市やJA等が取り組まないと増々衰退していくと思う。
- 振興計画を推進する母体として、現地現場における人、リーダーの育成と組織の育成と確立。
- 積極的な農業経営を支援する攻めの農業支援への転換のためにも、一層の充実化が求められよう。
- 豊かな山や海の資源を活かすことはとても大切な事業。高齢化社会と本事業を結びつけるなど、多面的に施策を考えていただきたい。
- 須金のブドウやナシのように地域ごとにブランド化したものが育つと、従事者の意欲が湧くとともに、消費者の購入意欲も湧くように思うので、ブランド化の強化が必要。
- 若者の就労と農林業を連動させ、農林業の活性化と若年層の従事者増を図ってほしい。
- 重要な事業だと考える。周南市の特産物を大いに広げていただくため必要。

50. 地域農林水産業の振興（水産）

- 水産物をPRできる、集客できる場所の必要性。
- 産業面以外の様々な視点から地域農業を守る必要性は高いと思われる。事業の優先順位は高いと考える。
- 豊かな山や海の資源を活かすことはとても大切な事業。高齢化社会と本事業を結びつけるなど、多面的に施策を考えていただきたい。
- NO.49同様、ブランド化が必要。